

主題：「神の宮である召会（神の永遠のエコノミーの目標）」

の内在的な意義

メッセージ 10

神の宮の中で神を享受する

聖書：詩 23:6 後半、26:8、27:4、36:8-9、43:4 前半、84:4

- I. 「わたしは神の祭壇に、わたしの歓喜と喜びである神に行きます」——詩 43:4 前半：
- A. 聖書で神と人の関係を最初に述べる時、神はご自身を人に食物として提示しています。これは、神が人にご自身を享受してもらいたいことを示します——創 2:8-9。
 - B. 神の子供たちとして、わたしたちは自分の観念を変え、神の願いとはご自身をわたしたちに享受として与えることであることを、認識する必要があります——詩 36:8-9。
- II. 「『わたしたちは立って、ベテルに上ろう。わたしはそこで……祭壇を築く』……彼はそこに祭壇を築き、その場所をエル・ベテルと呼んだ」——創 35:3 前半、7 前半：
- A. 創世記第 35 章には、神の個人的な経験から神の団体的な経験への、すなわち、ベテルの神としての神の経験への、重要で急激な転換があります——エペソ 3:17-21、4:4-6：
 - 1. 創世記第 35 章 7 節に、新しい神聖な称号があります。それは「エル・ベテル」、すなわち神の家の神です。
 - 2. この章の前に、神は個人の神でした。ここで彼はもはや個人の神だけではなく、エル・ベテル、すなわち団体の神、神の家の神です。
 - B. ベテルは団体の生活を表徴し、それはキリストからだけです。ですから、神をベテルの神と呼ぶことで、ヤコブは個人の経験から団体の経験へと前進しました——I コリント 12:12。
 - C. ヤコブがベテルに築いた祭壇は「エル・ベテル」と呼ばれ、それは団体と関係のある神の御名です。これは団体の祭壇、すなわち神の家のための祭壇です——創 35:6-7。
 - D. すべてに十分な神は、ベテルの建造のために啓示されています。ベテルにおいて、わたしたちは、わたしたちの神がすべてに十分であることを認識することが可能です——11 節前半：
 - 1. 神がご自身をすべてに十分な方として啓示した目的は、彼の建造のためです。すべてに十分な神は神の建造のためです。
 - 2. わたしたちは個人的な方法で、すべてに十分な神を経験することはできません。すべてに十分な神を経験するためには、ベテルに、すなわち召会生活にいなければなりません。
 - 3. 神のすべてに十分であることは、からだを必要とします。わたしたちが彼のこの面を経験するためには、家、建造が必要です——ピリピ 1:19。
- III. 「エホバの良きことを味わい、そして見よ」（詩 34:8）。わたしたちが神の良きことを味わい、そして見るのは神の宮の中で、すなわち、キリストの中で、召会の中で、そして究極的に、新エルサレムの中です：

- A. 「わたしは日々いつまでもエホバの家に住みます」—— 23:6 後半：
1. 神の家は、わたしたちが三一の神（御子の恵み、御父の愛、その霊の交わり）を享受するわたしたちの住まいです—— II コリント 13:14。
 2. エホバの家は、拡大された宇宙的な神性と人性の合併、すなわち、御父の現れ、満足、安息のための家です——ヨハネ 14:2, 20。
- B. 「エホバよ、わたしはあなたの家の住まいを、あなたの栄光が住む場所を愛します」（詩 26:8）。わたしたちは神の家の住まい、宮、すなわち彼の栄光が住み、とどまり、現される場所を愛すべきです—— 84:1, 29:9 後半。
- C. 「わたしは一つの事をエホバに願いました。わたしはそれだけを求めます。わたしの命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを」—— 27:4：
1. わたしたちの神は、愛すべき住まいを伴う愛すべきパーソンです。神ご自身には享受があり、彼の住まいにも享受があります。
 2. 「麗しさ」のヘブル語は、愛すべき事、喜ばしいこと、楽しいことを暗示します。わたしたちは神の麗しさを見つめるとき、とても喜ばしい雰囲気にあります——出 24:9-11, II コリント 3:18。
- D. 「彼らはあなたの家の豊かな脂肪分で飽き足り、あなたは彼らにあなたの楽しみの川から飲ませられます。あなたと共に、命の源泉があり、あなたの光の中で、わたしたちは光を見るのです」——詩 36:8-9：
1. わたしたちは、神の家、宮の内側にある脂肪分、満ちあふれ、豊富、豊満で飽き足りることができます—— 8 節前半。
 2. 神の宮の中で、わたしたちは神の楽しみの川から飲み、神の命の源泉を経験することができます、神の光の中で光を見ます—— 8 節後半-9 節。
 3. 神の宮の中で、わたしたちは命の川、命の木、命の源泉、命の光を持ちます：
 - a. わたしたちはキリストの中で、また召会の中で、わたしたちを飽き足らせる脂肪分、わたしたちの渇きをいやす命の川、わたしたちを養う命の木、わたしたちを照らす命の光としての、定住する神を享受します。
 - b. わたしたちは新エルサレムで、命の木の实、命の水の川で飽き足り、神の命の源泉にあずかり、神の神聖な光の中で光を見ます。これは神の宮における究極的な享受となります——啓 22:1-2, 5。
- E. 「あなたの家に住む者たちは幸いです。彼らはなおもあなたを賛美しています」——詩 84:4：
1. 「わたしは……永遠に限りなく、あなたの御名を賛美します」—— 145:2 後半。
 2. 「わたしは生きている限り、エホバを賛美し、なおも長らえる限り、わたしの神に詩篇を歌う」—— 146:2。
 3. 「あなたは聖であって、イスラエルの賛美の上に座しておられます」—— 22:3。
 4. 「ですから、彼を通して、絶えず賛美のいけにえ……を、神にささげようではありませんか」——ヘブル 13:15 前半。